



市立室蘭総合病院 広報誌

# くじらんネット

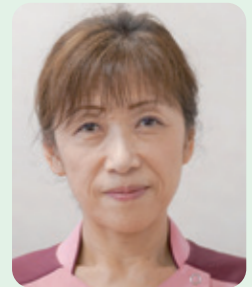
## 病院の理念 おもいやりの心がかよう病院

### 病院の基本方針

- ・信頼される医療を持続的に提供します。
- ・自治体病院としての役割と責任を担います。
- ・経営の健全化と効率化に努めます。

## 今こそ看護のチカラを発揮する

看護局長 くま がい ひろ み  
熊谷 広美



平成25年に看護局長に就任いたしましたから、今年度で7年目を迎えます。就任当初に比べますと室蘭市の高齢化率は37.1%と上昇し、当院を受診される65歳以上の患者割合は全体の約70%を占めています。団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、各地域で医療・介護の提供体制の整備が進められています。病院完結型から地域完結型の医療の変化に伴い、それぞれの場で活動する看護職が連携を強化することも重要視されています。当院におきましても、平成28年度から稼働いたしました入退院支援室では入院前から担当の看護師が介入させていただき、安心して治療に専念していただけるよう退院後の生活をも見据えて看護サービスの充実を図っております。自治体病院の役割としてこの地域で求められる医療ニーズに合わせたサービスの提供がなければ、地域で安心して暮らし続けることが実現できません。そのためには、患者さんが安心して外来を受診ができること、また入院生活が送れるように看護師一人ひとりが患者さんの言葉に耳を傾け、求められる最適で最良の看護を考え、丁寧に対応する姿勢をもつことがとても大切であると考えています。また、専門性の高い看護師が役割を発揮して疾患の重症化や合併症の予防に務め、在宅では安心して暮らせるよう訪問看護室の担当看護師がお手伝いをさせていただいておりますので、どうぞご相談ください。

また最近では、住民の方々を対象としました様々な講演会が開催されておりますが、看護師の職能団体である北海道看護協会室蘭支部でも、2019年9月7日(土) 10:00~12:00住民フォーラムを開催いたします。テーマは「自分らしい最期を迎えるために」です。住み慣れた自宅で自分らしい最期を迎えることができるよう在宅医療や看取りについて、医師や看護師などの立場で事例を交えてお伝えし、終活ノートの配布や相談コーナーもあります。今後、広報活動を行ってまいりますので、どうぞお気軽にご参加ください。

人生100年時代へ突入と言われる中、住み慣れた地域で自分らしく過ごすことができる様、看護のチカラを様々な場面で発揮できるように仕組み作りに尽力していきたいと思っております。

# シリーズ 健康講座

第36回

## 《 消化器内科 》

### がん治療×老年医学×チーム医療

～ 高齢のがん患者さんの治療・  
生活を多職種チームで支えます ～



消化器内科 科長 おの でら けい  
がん薬物療法専門医 小野寺 馨

高齢化が進む日本では、65歳以上の人口割合（高齢化率）が2050年に37.7%になると推計されています。しかし、地方においてはより高齢化が顕著であり、室蘭市では2018年ですでに高齢化率が37.1%に達しています。

人は30歳頃から生理機能が低下、つまり老化が始まるとされています。加齢とともに高血圧、糖尿病、脂質異常症といった生活習慣病に加え、骨粗鬆症、認知症、脳卒中などの動脈硬化性疾患、肺炎を主とした感染症、抑うつ・意欲低下といった老年疾患が重なり、多病となることがしばしばみられます。また、老化による病気のひとつに「がん」があり、高齢者のがん罹患数が増加しています。がんは病気そのものによってもさまざまな症状を伴いますが、手術や抗がん薬といった治療によっても心身に大きな負担がかかることが特徴です。

高齢者の場合、病気そのものに加えて、歩行や入浴、家事や外出といった日常生活動作能力の低下、経済状況、住居や家族状況など生活の問題もからみ、状況をより複雑なものにします。そのため、ひとつひとつの病気についてばらばらに対処することではなく、心身の問題・生活の問題も含めて総合的評価し、どのように対処するのが最善であるのかを考えていくことが大切です。つまり、「病気」だけを診るのではなく、心身・生活を含めて総合的に「ひと」を診ることが重要です。

当院ではこのような「老年医学」の考えをがん治療に取り入れ、医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、社会福祉士の多職種からなるチームで、地域で増えている高齢のがん患者さんの診断・治療・生活支援を行う取り組みをはじめています。皆様、何かお困りのことがあれば、ぜひご相談ください。

市立室蘭総合病院の

# チーム医療



## Vol.3 感染防止対策室をご存知ですか？

感染対策チーム (ICT)・抗菌薬適正使用支援チーム (AST) が活動しています！



〈チームメンバー〉

病院を利用する全ての皆さんと院内で勤務する全ての職員を感染から守り、清潔で、安全・安心な医療環境を提供するため、2012年4月より感染防止対策室が開設されています。院内の感染対策は、全職員で取り組まなくてはならないため、専任の医師・薬剤師・臨床検査技師、専従の看護師の4職種からなる以下のチームを組織し、職種横断的に活動しています。

### 1. 感染対策チーム (ICT: Infection Control Team)

院内の感染対策の実働部隊として、週1回の院内ラウンドを行い、各部署で感染対策が適切に実施されているかを確認しています。また、最新の知識をもって職員が業務にあたるよう定期的な研修会も開催しています。さらに、常時感染症の発生状況を把握し、問題があれば現場に駆けつけ、適宜アドバイスをを行い、院内感染が拡大しないように努めています。

院外の活動としては、「西胆振感染対策地域ネットワーク」を組織し、地域の医療施設とも定期的なカンファレンスを開催し、情報共有しながら、顔の見える関係を築き、地域においても感染対策のボトムアップを目指し、日々活動しています。



〈合同カンファレンスの様子〉



〈ICTラウンドの様子〉

### 2. 抗菌薬適正使用支援チーム (AST: Antimicrobial Stewardship Team)



〈ASTカンファレンスの様子〉

細菌感染症の治療において患者さんの予後を改善するためには、的確に感染症の診断を行い、適切なタイミングで最も効果的な抗菌薬を投与することが重要です。ASTは、週2回のカンファレンスを開催し、各科の先生方の意見も聞きながら、入院患者さんの抗菌薬の使用状況を把握し、適切な抗菌薬を選択しているか、投与量、投与期間は問題ないかといった抗菌薬の使用状況を常に見守り、最大限の治療効果が引き出せるような活動をしています。

# くじらん健康教室 を開催します



当院では、市民の皆様を対象とした公開講座「くじらん健康教室」を開催しています。今年度は様々なテーマで合計6回の開催を予定しています。どうぞお気軽にお越しください。

9月の  
くじらん  
健康教室

テーマ／**乳がんと共に生きる**

日時／9月20日(金) 13時30分～

会場／市立室蘭総合病院 2階講堂

参加費／無料

◇13時30分～14時00分「**転ばないための第一歩**」

自分の筋力、バランス、歩く速さをチェックしてみましょう

◇14時00分～15時00分

講演1 宇野 智子 医師

(日本乳癌学会乳腺認定医)

講演2 若林 さやか(医療ソーシャルワーカー)

講演3 鈴木 ももこ(理学療法士)

※当日は動きやすい服装でお越しください。

※「くじらん健康手帳」をお持ちの方はご持参ください。

## 今後のスケジュール

11月:感染症について

1月:リハビリテーションについて

3月:骨粗しょう症について

※詳細が決まりましたら  
改めてお知らせいたします。

# 休日における乳がん検診のお知らせ

実施日

受診人数枠

検診内容と料金

令和元年10月27日(日) (令和元年9月1日より予約開始です)

40人(完全予約制です。お電話でご予約ください。)

●マンモグラフィー検査(40歳以上) ……………: 4,500円(税込)

●エコー検査(20～39歳) ……………: 3,500円(税込)

●マンモグラフィーとエコー検査併用(40歳以上) ……: 8,000円(税込)

※マンモグラフィー検査は無料クーポンや助成制度が利用可能です。

※マンモグラフィーとエコー検査併用は通常平日時は10,000円

(女性技師が対応いたします)

※ジャパン・マンモグラフィー・サンデー(J・M・Sプログラム)に登録



事務局 医事課 ☎25-3111 (内線2239)

## 新任医師のご紹介

8月に  
着任  
しました

消化器内科 医長  
ひらの たけひろ

平野 雄大 医師



市立室蘭総合病院 広報委員会

〒051-8512

室蘭市山手町3丁目8番1号

事務局総務課

TEL (0143) 25-3111 FAX (0143) 22-6867

<http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/>